

紀伊半島 大荒れ

好評発売中

後誠介 [著]

A5判並製

120頁カラー(写真74点)

税込1,430円

ISBN978-4-89984-202-6

はる書房 発行

大地の成り立ちからみた豪雨災害

東日本大震災から半年後の2011(平成23)年9月、紀伊半島を大水害が襲う！
台風に伴う豪雨災害としては近年最大の被害を出す

「遅くとも、土砂災害警戒情報」で行動を！

破局的な土砂災害が、住民への避難を促す情報が発表されないまま起きた、という驚きの事実。

「あっという間に、避難できなくなる」

小さくとも危険な兆しを見逃さない。小さな危険が避難を困難にする場合もある。

大地の成り立ち、土壌の保水力の限界、土砂災害と洪水災害の連鎖など

私たちは、自然災害が大きな災害となるしくみを今こそ知る必要がある。



大規模崩壊地(和歌山県田辺市本宮町、2013年9月22日撮影)



2011(平成23)年台風12号の進路図。
紀伊半島へ上陸することなく、四国・中国を北上



著者略歴

後誠介 うしろせいすけ

1952年和歌山県那智勝浦町生まれ。広島大学教育学部卒業。2005年に近畿大学附属新宮高等学校校長、同中学校校長を退職。現在、和歌山大学客員教授(災害科学・レジリエンス共創センター)、南紀熊野ジオパーク推進協議会学術専門委員。

ご注文方法

最寄りの書店でお取り寄せできます。このチラシを持参ください。アマゾンや楽天などインターネット書店でも取り扱っています。小社へのご注文はメール、電話、FAXで承ります。TEL. 03-3293-8549 / FAX. 03-3293-8558 Eメール: sakuma@harushobo.jp



紀伊半島大水害の3つの「不思議」を解明